

研究課題 アイヌ民族に関する教育

共感的理解を伴う 「アイヌ民族の歴史や文化」の授業の在り方

札幌市立信濃小学校 代表者 松岡 洋一

I 研究の目指しているもの

アイヌ民族にみる
「共生」という価値
観と子どもたち

1 研究のねらい

アイヌ民族の生活様式には「自然と共存しながら生活する」という価値観が根底にある。この「自然を尊び自然と共に生きる」という基本理念は、豊かな現代社会に生まれ育った子どもたちにとっても、必要不可欠な価値観になると考える。

併せて、すべての国民一人一人がかげがえのない人格をもつ人間として尊重され、基本的な人権が保障されるという認識を培っていくことは、民主的平和的な国家・社会の形成者に必要な資質の一つである。アイヌ民族の歴史や文化等に関する学校における指導についても、この人間尊重の精神や人権問題についての正しい理解と認識がなされるようにしていくことが大切である。

アイヌ民族の歴史や
文化等に対する共感
的な理解を深める

北海道の先住民族であるアイヌ民族の歴史や文化等に関する学習については、社会科を中心とする各教科や総合的な学習の時間等で取り上げられている。しかし、実際には教科書や副読本等の読み取りを中心とした学習を通して、表層的な知識の獲得を中心とした展開になることが多い。

アイヌ民族の歴史や文化に対する正しい知識の獲得に加え、共感的な理解を深めていくことが不可欠である。そのために、子どもたちに価値ある体験をさせたり、有効な資料や具体物を提示したり、衣食住を追求の糸口にするなどして、子どもの身近な生活経験との接点をもとにしたりすることを重視していきたい。

新学習指導要領の改訂を見据えながら、「札幌市小学校教育課程編成の手引」に位置付けられた指導内容について吟味を図りたい。そして、アイヌ民族の歴史や文化等、子どもたちにとって価値のある具体的な活動や体験を通して、共感的・実感的理解を深める学習の在り方について、今回の研究実践に取り組んでいきたい。

具体物の提示や体験
的な活動の場を中核
に据えた授業を

2 研究の具体化

「アイヌ民族」という言葉を耳にする機会は少なくないが、子供たちは意外と知らない。さらに、実際にアイヌの人たちと交流したり、その歴史や文化に直接触れたり、関連施設を見学したりするという学習場面はそれほど多くない。そこで、アイヌ民族に対する共感的な理解を深めるために、4・5・6学年の3実践を構築した。3実践、それぞれの発達段階に応じた学習内容と、系統性を考慮しながら、社会科および総合的な学習の時間の学習内容として（＝「札幌市教育課程編成の手引」に基づき）指導計画を吟味・構成し、人間尊重につながる学習を進めたい。

小学校（4～6学年）
と中学校の系統性と
発展性

- | | |
|----------------------|---------------------------|
| ① アイヌ民族に関する教材化 | ＝教材開発と再構成・再発掘を＝ |
| ② アイヌ民族の歴史や文化等に対する理解 | ＝共感的、実感的、具体的に＝ |
| ③ アイヌ民族の自然観 | ＝自然との共生という現代社会に与える貴重な示唆を＝ |
| ④ 人権教育 | ＝人間尊重につながる学習＝ |

以上のような順序性に重点を置きながら、実践を行い、授業の在り方を追求したい。

Ⅱ 研究の内容

実践 1

衣類アツシの原料から アイヌの人々の生活と文化を

小学校 4年 社会

実践者 樋浦 美香 (札幌市立信濃小学校)

衣食住の「衣」に焦点を絞り、自然を生かして生活していたアイヌの人々に迫る



アツシづくりのオヒョウの樹皮のはがし方から、自然との共生へ

1. 教材化について

3学年で子どもたちは「アイヌ語地名」「札幌市内のアイヌ語起源」などの学習内容に触れてきた。しかし、アイヌの人々の生活と文化について具体的、重点的に取り上げていく学習は、4学年に位置付けられている。

本単元では「昔のアイヌの人々は、自然と深くかかわり、自然を生かして生活していた」ことを共感的に理解させていきたい。現代社会に生活する子どもたちと昔のアイヌの人々の暮らしとの接点を求めながら、衣食住等の視点から教材化を図りたい。

そこで、衣食住の「衣」に焦点を絞り、衣類であるアツシの作り方を具体例に取り上げた。「札幌市教育課程の手引」「アイヌ民族の歴史・文化等に関する指導資料」などに記載され、これまで学校研究事業委託等でも積み重ねられてきた「衣」の実践の代表例である。これまでの指導事例を参考に、子どもの実態や地域の特性などを考慮しながら、再構成することとした。

2. 単元構成について

単元の導入で「アイヌ語地名」「身近なアイヌの言葉」等を通して、ふだん自分たちが使っている言葉がアイヌの言葉に由来していることを学習してきた子どもたち。アイヌの民話を味わい、アイヌの子どもたちの遊びを体験しながら、アイヌの人々の生活と文化に対して問題意識の醸成を図る。

衣食住の「衣」という視点では、オヒョウの樹皮のはがし方に着目させ、アイヌの人々の自然との共生の意味を理解できるようにした。

実際に木の皮をはがす疑似体験をしたり、具体物を提示したり、視聴覚機器を効果的に活用したり、ゲストティーチャーと交流をしたりする等、具体的な活動を効果的に構成した。

アイヌの人々の生活や文化を身近に感じ、実感や納得の伴った学習展開が図れるよう場を構成することで、最終的には自分たちの生活をふり返り、未来を志向したり、アイヌの自然観に共感したりする姿を求めたい。

3. 本時の目標

アツシづくりにおける「オヒョウのはがし方」について、樹皮を少ししかはがさない理由を考え、自然を大切にしながら共存していたアイヌの人々の考え方や思いを理解することができる。

《単元の流れ》

北海道の地名はアイヌ語に由来しているね！

アイヌ語の地名について調べよう

【アイヌ語起源の地名調べ】

- ・ サッポロベツ・ナイボ…とても多い！
- ・ どんな意味があるんだろう？



アイヌの人たちは、どのような「くらし」をしていたのかな？

伝統を大切にし、自然と共にくらしていたアイヌの人たち

【アイヌの民話の世界へ】 【遊び・文化】

- ・ 『読書の世界を広げよう』
- ・ 「カリプ」「チュプ」等の遊び
- ・ アイヌの民話を読んでみよう
- ・ 「文様づくり」の体験

アイヌの人たちの「くらし」(=「衣」「食」「住」)を調べよう




衣 ……「どうしてアイヌの人々は、オヒョウの皮を少ししかはがさないのかな？」

《本時》



アイヌの人々は自然の恵みを大切に利用し、自然と共にくらしていたんだね。今の自分たちの生活を見つめ直してみよう。

4. 本時の展開

子どもの思いや活動の流れ	成果と課題
<p>○具体物の提示</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・この模様は切り絵で作ったことがあったね ・北海道開拓記念館で見たよ ・アイヌの人たちが着る服かな？ <p>アイヌの人たちがつくったアツシ</p> <p>さわってみたいかな？ どんな手ざわりかな？</p> <p>何でできているのかな？</p> <p>どのようにしてつくったのかな？</p>	<ul style="list-style-type: none"> * アイヌ文様づくり、開拓記念館の見学等の既習を生かすことができた。 * アツシの実物を試着した数名からの感想と「アツシが木の皮からできている」という事実から大きな驚き（意外性）をもった。
<p>○資料提示<原料や工程について></p>	<ul style="list-style-type: none"> * 作業工程の写真を掲示し、簡単にアツシづくりを補説した。
<p>○疑似体験</p> <p>オヒョウという木の皮でつくられた</p>  <p>木の皮1本から1枚をはがして作っていたね。</p> <p>どうして1本の木からすべての皮をはがさないのかな？ あとの2本はがさなくてもよいではないかな？</p>	<ul style="list-style-type: none"> * オヒョウの木（模型）を三本用意し、子どもに実際に樹皮をはがさせた。一部しかはがさないことを印象付けることができた。
<p>どうしてアイヌの人々は木の皮を少ししかはがさないのかな？</p>	<p><再構成のポイント></p> <p>3本のオヒョウの木（模型）を提示することから「1本だけはがすとよいのではないか」「サケは1匹余すところなく使い切ったのに」などの問題意識を生むことができた。</p>
<p>《木》 めぐみ 《アイヌの人たち》</p> <p>自然と共に…</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長生きするように ・木が死なないように枯れないように。 アツシに良い皮を選んで。 ・自然を大切にしている。 ・神様の恵みだから。 ・必要な分だけ。 ・未来のことも考えて。 ・自然にやさしい。 <p>守る</p>	<ul style="list-style-type: none"> * 「自然を大切に、木の恵みを生かして」「はがした木の命も大切に」等のアイヌの人々の考え方を引き出すことができた。「自然に神様がやどる」という既習を生かして追求することができた。
<p>○ゲストティーチャーの話</p>  <p>木の皮をはがした後は結びめを作っていた…</p> <p>木が死んでしまわないように…</p> <p>アイヌの人々は自然を守りながら、自然の材料を大切に使って、着る物を作っていたんだね！</p>	<ul style="list-style-type: none"> * ゲストティーチャーの松平智子さんに、木の皮をはいだ後のアイヌの人々の自然を大切にすることを表わす行為について、話していただき、自分たちの納得と共感を深めることができた。

5. 実践を振り返って

前時までの具体的な活動や体験を通して、アイヌの人々の生活や文化と子どもたちとの距離を縮めながら学習することができた。毎回の学習感想にも「もっと調べたい」「昔の北海道の様子を学習できて楽しい」等の記述が見られた。本時では、それまで学習してきたアイヌの人々の生活や文化が全て自然とかがわっていたことに気づき、具体的なアツシ作りから「自然との共生」を学ぶことができた。既にアイヌの人々を歴史的な観点から考える子もいて、これからの5・6学年の民族教育における基礎を身に付けさせることができた。

アイヌの人たちの自然観から環境教育と人権教育へ

小学校 5年 総合的な学習の時間

実践者 高橋 浩史 (札幌市立信濃小学校)

チェプケリ（サケの皮の靴）から自然との共生を



1. 教材化について

本校では、5学年の総合的な学習の時間に、環境についての内容を位置付けている。身近な地域の環境、自然環境の問題、地球的規模の環境等を学習内容としながら、探究的な活動を中核に据えてきた。これまで「アイヌの人々の自然観」「自然エネルギーの利用」「太陽光パネル」等を取り上げて教材化を図ってきた。

本年度は7月に「北海道洞爺湖サミット」が開催、関連して「先住民族サミット」も行われ、アイヌ民族の歴史や文化が改めて大きく取り上げられた。

これを機に、4学年で学習したアイヌ文化を想起させながら、「自然との共生」というアイヌの人々の自然観を再認識させていきたい。

北海道洞爺湖サミットを学習のきっかけとしながら、アイヌ文化の代表例としてチェプケリ（サケの皮の靴）を具体物として活用する。

「なぜ昔のアイヌの人たちはサケの皮で靴や服をつくったのかな」という問題意識から「捨てたらもったいない」「自然を大切に」「地球的規模で環境の見直しを」「現代生活に問いかける先住民族の知恵」「見直そう自分たちの生活」等の追求に発展させていきたい。

北海道洞爺湖サミットとアイヌ文化を追求の糸口に、環境教育及び人権教育へ

2. 単元構成について

本単元では、「環境問題について詳しく調べよう」という共通テーマに対して、子ども一人一人が主体的に取り組むよう手だてを講じたい。新学習指導要領では、探究的な活動について、『課題の設定→情報の取り出し・収集→情報の整理・分析→まとめ・表現（言語活動の充実）』という過程を重要視している。そこで、単元の導入に、

「北海道洞爺湖サミット調べ」「アイヌ文化の代表例：チェプケリ」の学習を構成することで、一人一人の課題解決や探究的な活動が、より具体的・実感的なものになると考えた。

また、北海道洞爺湖サミットとアイヌ文化というタイムリーで身近な事例を糸口にした環境教育（＝ごみ問題、温暖化、砂漠化、動植物の絶滅等）と人権教育（＝アイヌ民族の歴史や文化等の尊重）

を目指したい。一人一人のこだわりを生かした課題解決を通して、広く深い追求を進めることができるからである。



3. 本時の目標

- サケの皮で靴や服を作っていた事実から、アイヌの人たちの自然観（＝自然との共生）を理解することができる。
- 自然との共生という観点から自分たちの生活を振り返り、地球の環境問題に対して問題意識をもつことができる。

北海道洞爺湖サミットについて調べよう

洞爺湖サミット
の目指したもの

自然との共生

先住民族サミット
の開催も

チェプケリ（サケの皮の靴）から
アイヌ民族の自然観を <本時>



環境問題について詳しく調べよう

温暖化

砂漠化

ごみ問題

公害

参考文献、インターネット、聞き取り調査…

発信！環境問題ポスターセッション

- ・様々な環境問題を抱えている今の地球
- ・アイヌの人々の自然観から見直そう、自分たちの暮らしを。《アイヌ民族の歴史や文化の尊重》
- ・私たちにできることを考え、行動して行こう！